

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●京都大学教育学研究科臨床教育学専攻

「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

臨床の知を創出する質的に高度な人材を養成することを目的とし、以下の4つのプログラムの下で科目構成の再編を行った。

- (1) トップランナープログラムとして、内外から講師を招聘し、臨床の知を有したトップランナーに触れる機会を新たに設けた。
- (2) フィールド・実践プログラムとして、臨床の知の体得を目指し、カンファレンスや相談室実習を充実させた。
- (3) ボトムアッププログラムとして、大学院生が自らテーマを設定、研究し、それにもとづいて授業を展開する「研究コロキウム」を実施した。
- (4) 臨床の知プログラムとして、これら3つのプログラムで得た経験と知識とを統合することを目的とする「京大型臨床論」や「心理臨床学特論」等の科目を開講した。さらに、国際的な場で活躍できる力を養成するために、著名な外国人教員を招いて、外国語で実施される授業「国際教育研究フロンティア」を新たに設置した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- (1) トップランナープログラムにおいては、トップランナーに受動的に触れるだけでなく、学生も自発的に参画できるように工夫し、学生からの意見を求めたり、相互的にフィードバックを行う機会を設けた。
- (2) フィールド・実践プログラムにおいては、大学内にある心理教育相談室に留まらず、教育現場・医療・司法領域など様々なフィールドに、実践の場を広げた。
- (3) ボトムアッププログラムでは、学生自らの自発的・主体的な学びを養成するよう努めた。
- (4) 臨床の知プログラムにおいては、様々な実践が単発的にならないよう、それらを総合的に捉える視点を提供することに努めた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- (1) トップランナープログラムによって、学生は大きな刺激を得て、国際学会への参加・発表が増加した。
- (2) 臨床実践の場の拡大によって、他領域・他職種との交流も深まり、内外のカンファレンスや人材交流の機会が増えた。

(3) ボトムアッププログラムにおいては、学生が継続的に研究を行っていく素地が得られ、国内・国際学会での発表や論文投稿が増加した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

●京都大学教育学研究科臨床教育学専攻

「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

主に、国際学会への旅費を中心とする経済的支援を行い、国際学会での発表を促した。外国語論文に対する英文校閲の支援を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

単なる発表に留まらず、帰国後、成果報告会を開き、学会発表の内容を教員・院生の間で共有するようにした。発表や英文校閲の支援に際しては、厳正な審査を行い、公平・公正を期した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

国際発表での発表数が増加した。外国語論文執筆の動機付けが高められた。